

# 中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

## 学校教育目標

『自らの生き方を切りひらく子どもの育成』～やさしさ いっぱいかがやく えがお～  
 【知】自分らしさを発揮する子どもの意欲を引き出すようにします。  
 【徳】信頼と思いやりをもって、共に生きることのできる素晴らしい心を実感できるようにします。  
 【体】自ら進んで心を育て、体づくりができるようにします。  
 【公】豊かなかかわり合いを通して、主体的に行動する力を育てていきます。  
 【開】地域を愛し、地域に学ぶ姿勢を大切にします。

## 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- 〈自分づくりに関する力〉
- 〈問題発見・解決能力〉
- 〈心身ともにたくましく生きる力〉

## 具体化した資質・能力

- 自らの考えや思いを、様々な手段で伝える力
- 互いのよさを認め、高め合う態度
- 積極的に体を動かし、心身を鍛えようとする態度
- 様々な活動の中から課題を見出し、進んで解決しようとする力
- 地域のことに関心をもち、積極的に関わっていかうとする姿勢

## 中期取組目標

- 自ら問題や課題を見出し、解決に向けて主体的に取り組む子どもを育てます。
- 自分の思いを大切にしながら、他と伝え合うことで考えを深めることができる子どもを育てます。
- まちの「人・こと・もの」とのつながりを大切に、感謝とまちを愛する気持ちを育てます。
- 地域との連携しながら、規範意識や人権を尊重する心、社会参画意識を高めていきます。

## 学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①「個別最適な学びを取り入れた授業」を目標に、多様な学習形態や方法を工夫し、低・中・高ブロックごとに具体的な手立てを考え実践する。②教科担任制・少人数学習・GIGA端末の活用を通して子どもたちの学力を丁寧に把握し、一人ひとりに合わせた指導を目指して授業改善に努める。
担当	推進部会

## 学力向上に関わる本校の状況

(1)児童アンケートの推移より  
 ・「先生の授業は、工夫して分かりやすかったので、勉強を頑張ることができた」の項目が90%と高い値になってきている。  
 ・すすんで学習に取り組んだり、考えたことを発表したり、文で表したりすることができる児童が75%付近で滞っている。

児童アンケート推移		令和5年度	令和6年度	令和7年度
A: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	90%	90%	90%
B: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
C: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
D: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
E: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
F: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
G: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
H: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
I: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
J: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
K: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
L: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
M: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
N: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
O: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
P: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
Q: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
R: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
S: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
T: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
U: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
V: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
W: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
X: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
Y: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%
Z: 先生の授業は、工夫して分かりやすかった	勉強を頑張ることができた	79%	79%	79%

(2)これまでの学校の取組状況  
 ・「自分の言葉で表現する子の育成」をテーマに行ってきた。達成のために手立てを講じたことで、次の成果が上がった。友だちと話し合うことが好きになった。進んで学習に取り組んだり、考えたことを発表したり、文に表したりすることができる児童が増えた。  
 ・教科担任制、少人数算数を導入し、より分かりやすい授業を確立できた。また、少人数算数を取り入れ、一人の子どもに支援できる時間を増やし、児童の学習意欲、学力の向上につながった。

## 今年度の目標

個別最適な学びを取り入れた授業  
 多様な学習形態や方法を工夫し、子どもたちの主体性を引き出す

## 目標を実現するための具体的行動プラン

○子どもたちの主体性を育む授業づくり  
 ・『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』というテーマを掲げて授業づくりに取り組む。子どもたちが学習の主体となり、子どもたち同士で学習を豊かにしていく。  
 ・今年度は特に、『個別最適な学びを取り入れた授業の模索』を学校全体での取り組みとしていく。教職員同士も互いの授業を見て学び合い、子どもたち一人ひとりに合わせた授業づくりとはどんなものがあるか、実践を重ねながら研究を深める。

○一人ひとりの学習を丁寧にみるための支援体制  
 ・各学年、各ブロックに合った教科担任制を導入し、より分かりやすい授業づくりを目指す。  
 ・少人数算数を取り入れ、一人の子どもに支援できる時間を増やす。  
 ・GIGA端末を活用し、子どもたち一人ひとりの学習の状況を把握して、それに合わせた指導ができるようにする。

上半期

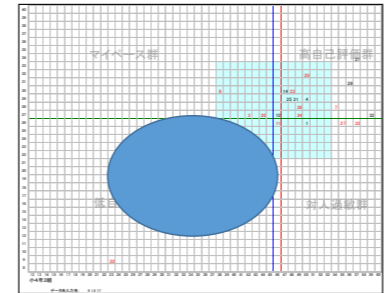
下半期

## 豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
人権教育	①子どもたちの変化に気付き、困り感に寄り添うため、実態把握、環境整備、学習支援に取り組む。学校全体で児童理解を進め、子どもの自尊感情を育む。②規範意識や人権を尊重する心、社会参画意識をさらに高めるため、自然体験や生活体験、地域を生かした福祉教育を充実させる。
担当	道徳部 人権担当

## 豊かな心に関わる本校の状況

(1)YPアセスメントシートより  
 ・中学校ブロック全体として、低自己評価群に位置する児童が多い。そのため、「自尊感情を育む取組」を各学年で取りためて、「だれもが」「安心して」「豊かに」過ごせるよう人権教育の充実を図る。



(2)これまでの学校の取組状況  
 各学年、各教科の成果から「自分はどうか」を意識できるようにして他者と「くらべない」取組をすることで自尊感情が高まっていた。高学年では、他者への思いやりの気持ちが育つことで必要感が感じられ、社会に貢献している実感が得られた。各担任が「責めない」ことを意識することで、自己受容をし、自己肯定・自尊感情も育っている。  
 課題としては、低学年は自己受容できるまでの心の成長を育むことである。高学年は自分の言葉で伝えられない児童が多い。

## 今年度の目標

自尊感情を育み、  
 「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校を目指す

## 目標を実現するための具体的行動プラン

1 人権尊重の精神を基盤とする授業づくり  
 ・子どもの困り感に寄り添うための実態把握、環境整備、学習支援  
 ・スタートプログラム、子どもの社会的スキル横浜プログラムを参考に授業実践  
 2 他者の思いに寄り添う心育む取組  
 ・全校でのなかよしペア活動、ペア学年での取り組み、学年内での実行委員、各クラスの係活動  
 3 子どもたちの学びを深める人権学習の計画  
 ・YPアセスメントシートを分析し、それを活用した人権学習の授業を時期に合わせて意図的に行う。  
 4 教職員の人権意識を高める校内研修計画  
 ・継続的な校内研修の実施(5月～12月)  
 (YPアセスメント研修、体罰防止研修、自閉症理解研修、障がい者差別解消研修、いじめ防止研修など)

上半期

下半期

## 健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①健康な体の育成を図るため、全校で取り組むことができる活動を計画する。(長縄集会、全校体操、学校保健委員会・運動委員会からの提案など) ②養護教諭、栄養職員を中心に保健指導や食育指導を実施する。
担当	体育部 保健部

## 健やかな体に関わる本校の状況

○横浜市体力・運動能力調査結果を分析すると、児童の運動能力の低下が見られる。  
 また、保健室の来室状況を分析すると、けがでの来室が多く、特に転倒や衝突によるけがが多い傾向にある。そこで、体を支持する力や体幹を強くしていく運動に継続的に取り組むとともに、運動に親しむ機会を増やしていく必要性を感じる。

## 今年度の目標

○一校一実践として柔軟運動や体幹を意識できる体操などを取り入れる。  
 ○休み時間での校庭での遊び方を確立し楽しんでスポーツに取り組む。

## 目標を実現するための具体的行動プラン

《体育科・保健体育科での取組》「授業」のつながり  
 ○単元の特性を明確にし、子どもたちが楽しみながら運動に取り組めるような授業作りを工夫する。  
 ○子ども一人ひとりがめあてをしっかりともち、自分の力に合った場などを選び、運動に取り組めるよう指導する。

○休み時間での校庭の遊び方ルールを決め、安全に楽しくスポーツに触れ合う子を育てる。  
 ○一校一実践として、柔軟体操、ストレッチ等を取り入れた「ハビスマ体操」を全校で実施する。  
 ○学校保健委員会に取り組み、健康や運動に対する意欲や関心を高める。

○年間を通して長縄集会を計画し、日々運動に親しむ時間を設ける。

上半期

下半期